コミュニケーションテストＯＰＩｃオンサイト
実施の振り返りから、次へのつながりを展望する

①JAGCEとの歩み概要と総括

②成果（西九州大学）詳細考察

③課題への挑戦（つながり作りへの貢献）

④つながり作りへの留意点（提言）

＜補足資料：JACET世界大会ポスターより一部転用＞

①OPIc（Oral Proficiency Interview - computer）とは

②OPIc英語スピーキングテストの概要

③OPIcの日本での適切な利用探索（実績）

④OPIcの日本での適切な利用探索（今後）

時間軸と空間軸を見据えたつながり

Global8 → ∞

１．ＪＡＧＣＥとの歩み概要と総括

第二回全国大会（NEC時代）から本日の第五回全国大会までの主な活動と実績

サイト名	分類	支部(地域)	備　考
北海道情報大学	大学	北海道	2016/12/11第四回全国大会 マレーシア短期語学研修
桐蔭学園	高校	関東	日本語OPIc
名古屋大学	大学	中部	E-learningからテレビ会議交流へ
関西大学	大学	関西	KU-COIL
西九州大学	大学	九州	2017/8/17第四回九州支部大会 2017/8/16GCE(OPIc)公開 8/17日本語OPIc
NEC	企業	賛助	2014/11/16第二回全国大会招待講演 2015/8/8第二回北海道支部大会発表 2015/11/13第三回全国大会発表
English Central	企業	賛助	個人受験会場連携

成果

- 第四回九州支部大会主催校における授業公開を１つの雛形として展開頂き、その際可視化エビデンス提供に貢献していきたい

課題

- 中四国地区への展開が出来ていない
- 高校ー大学ー大学院ー企業を「つなぐ」夫々における可視化は進められたが、北海学園(cf.P16)で実施したような一体型のモデル作りや評価への貢献が出来ていない

2．成果（西九州大学）詳細考察(1/3)

GCEプログラム概要成果

Global Communication English(GCE)時間割・学習内容(5.02 案)

			8．16（水）		8．17（木）学会		8．18（金）		8．19（土）		8．20（日）
1			ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（劇団）		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ （劇団）		弾丸 3	会話 1,2	EC	会話 3,4	―
2			“		“		会話 1,2	弾丸 3	会話 3,4	EC	―
3			弾丸 1	OPIc	弾丸 2	E C	弾丸 4		英語講演(小野)		―
4			OPIc	弾丸 1	E C	弾丸 2	EC		―		―
5			EC （任意）		EC （任意）		EC （任意）		―		―
場所			表現スタジオ 3203		表現スタジオ 3203		5301-5305, 3203		5301-5305, 3203		

	8．21（月）	8．22（火）	8．23（水）	8．24（木）	8．25（金）	8．26（土）	8．27（日
1	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1（佐々木）EC	会話 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2（佐々木）	EC 会話	特別授業(愛場)	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞﾚｯｼﾞ（LbE）	応用(金岡)	―
2	EC ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1（佐々木）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2（佐々木） 会話	会話 EC				―
3	Around the World 1(TA)	先輩の話	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備佐々木 1				―
4	Around the World 2 (TA)	ワークショップ	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備佐々木 2				―
5	EC （任意）	EC （任意）	EC （任意）	＊可能ならＴＡ会議	―	―	―
場所	5301-5305, 3203	5301-5305, 3203	5301-5305, 3203	5301-5305, 3203	5301-5305	5301-5305	

	8．28（月）	8．29（火）	8．30（水）	8．31（木）			
1	EC ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備佐々木 3	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備佐々木 4 EC	IRT	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ発表（準備）			
2	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備佐々木 3 会話	EC ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備佐々木 4	ＯＰＩｃ	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ発表（準備）佐々木			
3	会話 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ(青柳)	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備 （TA）	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備 （TA/各自）	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ発表 佐々木			
4	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ(青柳) E C	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備 （TA）	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ準備 （TA/各自）	ﾌﾟﾚｾﾞﾝ発表 佐々木			
5	EC （任意）	EC （任意）	EC （任意）	Closing Address			
場所	5301-5305, 第１情報室	5301-5305, 第１情報室	5301-5305, 第１情報室	5301-5305, 3203			

事前ＩＲＴ日本語・英語 5月中　特別講座 5月27日、6月10日、6月24日、7月？ 計4回

- **短期集中型でのJAGCEお勧めメニューモデル？**

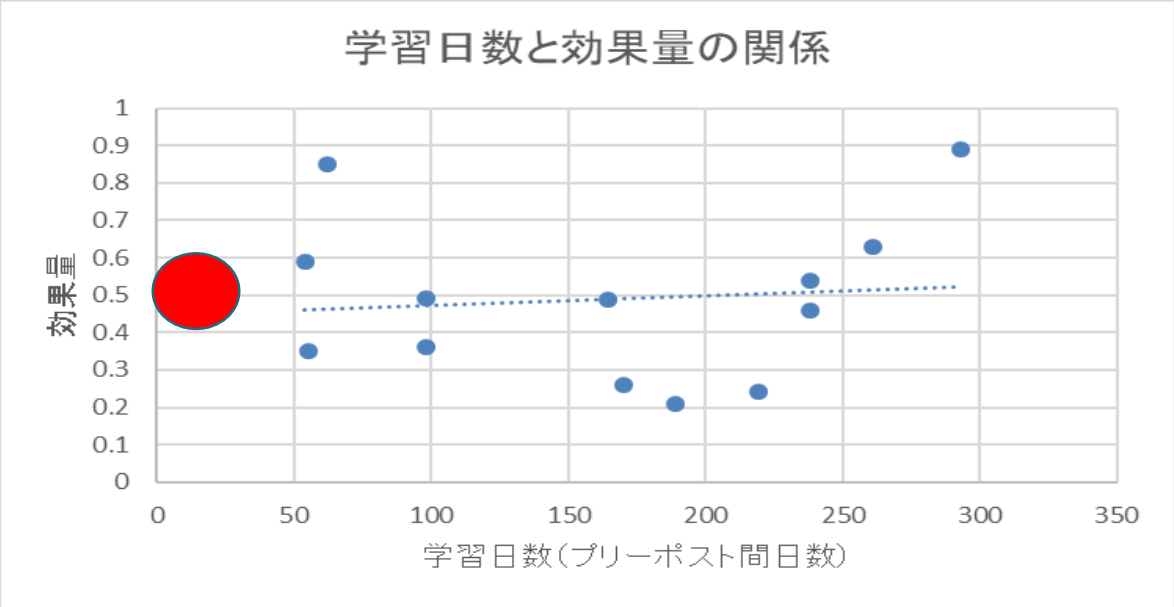
英語コミュニケーションテストOPIcオンサイトテストから見た3年の評価(cf.P18)

クラス	n	プリM	ＳＤ	ポストM	ＳＤ	効果量	UP/DN率
留学準備短期合宿	29	2.5	0.63	3.1	0.75	0.79	55.2
ＦＹ１６GCE	27	2.4	1.05	3.3	1.2	0.75	85.2
ＦＹ１７GCE	26	2.5	1.07	3.0	0.92	0.50	53.8

2．成果（西九州大学）詳細考察(2/3)

時間を掛けた量に相応して上達する訳では無いが、学習者は掛けた分以上の上達を期待？

- 授業内容の位置付けと過去事例開示必要？



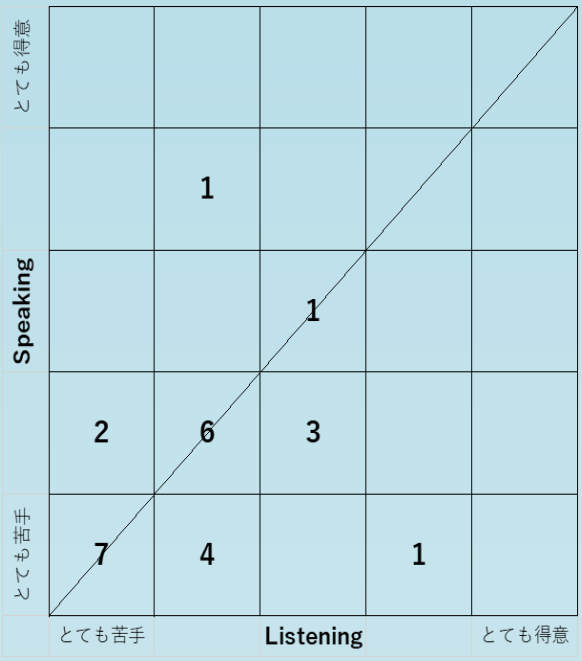
- 上記グラフに使用した詳細データ

No.	n	Pre-M	Pre-SD	Post-M	Post-SD	UP/DN率	効果量	Actual Days
1	13	3.7	0.98	4.2	0.7	61.5	0.59	54
2	14	2.4	0.93	2.8	0.7	42.9	0.49	98
3	7	2.1	0.9	2.4	0.79	28.6	0.35	55
4	13	5.8	1.91	6.2	1.82	30.8	0.21	189
5	22	4.4	1.1	5	1.1	59.1	0.54	238
6	6	5	0.89	5.2	0.75	16.7	0.24	219
7	44	4.2	1.94	4.7	1.92	54.5	0.26	170
8	21	3.7	0.66	4	0.97	28.6	0.36	98
9	21	4	1.26	4.8	1.63	81	0.63	261
10	18	3.7	0.49	4.2	0.62	50	0.89	293
11	29	4.4	0.82	4.8	0.93	44.8	0.46	238
12	19	3.8	1.08	4.6	0.77	78.9	0.85	62
Ave	18.9	3.9	1.1	4.4	1.1	48.1	0.5	164.6

Cohen(1988)の基準によれば、f = 0.10（効果量小），0.25(効果量中)，0.40(効果量大） 絶対値として0.25以上を意識したメニュー整備と学生の満足度バランスを探索

2．成果（西九州大学）詳細考察(3/3)

プリ受験前ー受験後ーポスト受験後意識の変容

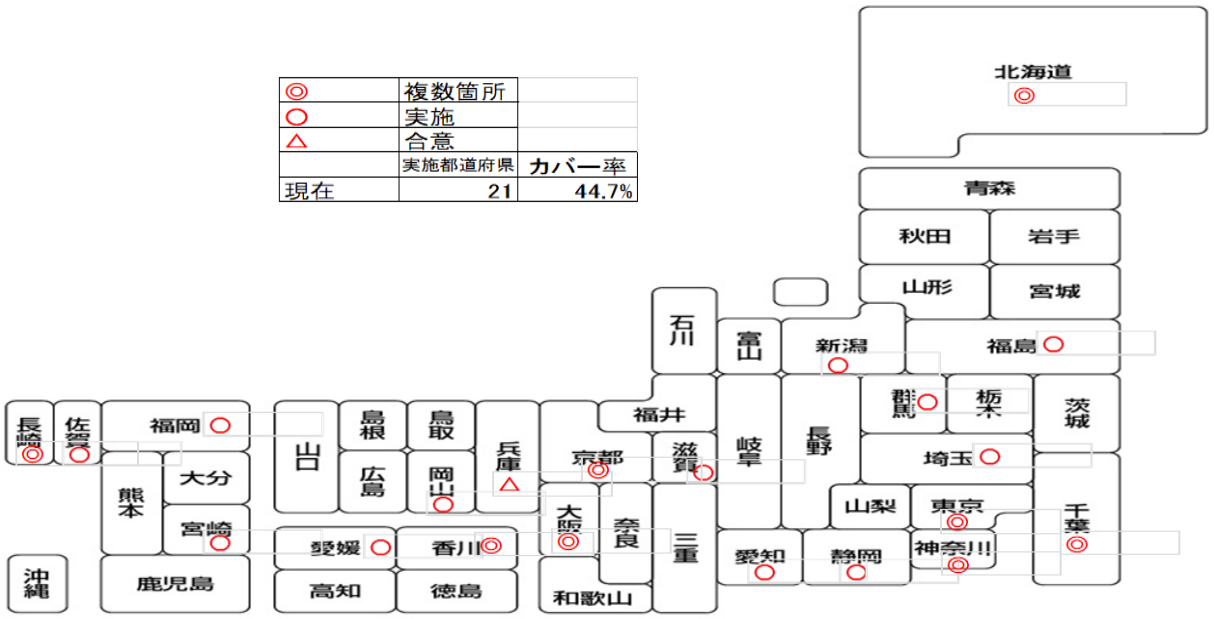


	西九州大学(n=25)	
事後アンケート質問内容	回答数	分布比率
問2. 自分の能力が発揮できましたか？		
（　）十分能力を発揮できた		
（　）少し能力を発揮できた	1	4.0
（　）どちらともいえない	8	32.0
（　）あまり能力を発揮できなかった	4	16.0
（　）全然能力を発揮できなかった	12	48.0
問3. 受験前の予想と比べてどのくらいできたと感じましたか？		
（　）だいぶよくできた		
（　）少しよくできた		
（　）予想通りだった	3	12.0
（　）予想よりできなかった	5	20.0
（　）予想よりはるかにできなかった	17	68.0
問4. OPIcテストを受けて今後の学習に対する思いは？		
（　）すごく勉強する気になった	11	44.0
（　）少しやる気が増した	10	40.0
（　）特に何も感じなかった	2	8.0
（　）少しやる気を無くした	1	4.0
（　）全くやる気を無くした	1	4.0

	西九州大学(n=26)	
事後アンケート質問内容	回答数	分布比率
問1．前回(プリ)テストに比べ、自分の能力が発揮できましたか？		
（　）十分能力を発揮できた	4	15.4
（　）少し能力を発揮できた	8	30.8
（　）どちらともいえない	12	46.2
（　）あまり能力を発揮できなかった	1	3.8
（　）全然能力を発揮できなかった	1	3.8
問2．受験前の予想と比べてどのくらいできたと感じましたか？		
（　）だいぶよくできた	2	7.7
（　）少しよくできた	11	42.3
（　）予想通りだった	10	38.5
（　）予想よりできなかった	2	7.7
（　）予想よりはるかにできなかった	1	3.8
問3．後日、OPIcテストの再受験を希望しますか？		
（　）ぜひまた受験したい	4	15.4
（　）機会があれば受験してもよい	19	73.1
（　）受験したくない	3	11.5

第4回九州支部大会における②「専門と英語」島ノ江　未佳（西九州大学）様の発表並びに情報交換会の意欲と自信

地域展開概況（’16/10/1当法人サービス開始時点）



‘16/10/1-日本語OPIcスピーキングテストのサービスを追加。主に日本への留学生向けの評価を通じて、地方のCBT実施加速化

- 現在提供のサービスメニュー

	英　語	ロシア語	日本語	その他
OPI	実施済	実施済	実施可能	実施可能
OPIc	実施済	実施不可	実施済	実施不可

- OPIを使った上位スキルへの研鑽意欲継続。又、学内にいる留学生へのOPIc日本語を活用した実態把握により、国内に居ながらのグローバルへの「つながり」を支援

3．課題への挑戦（つながり作りへの貢献）（2/3）

ICTリテラシーは外国語同様グローバルへの将来スキルだが、実態はCBTの環境不足とICTリテラシー不足

- CALL教室の2－3割はセキュリティー統制を理由に使い勝手が悪い
- 高校は教科情報のPCが中心
- 教科情報PCの場合ヘッドセットは無く、ヘッドセット装着もアダプターが後ろ付で取り外しが非常に困難
- 高校生のICTリテラシーは総じてオペレーションを行えるレベルにあるが、せっかちな生徒においては操作ミスも見受けられる
- 音響系のチェックは個人差があり、試験当日のチェック項目となるが、その際スピーカーの不具合が顕在化すると試験運用に支障
- 地方県立高における実践事例では、LANのスペックが10MBps（vs4G・LTE75~100MBps）であったため初期画面読込等で多くのフリーズ状態が発生し、全体の円滑なテスト運行困難
- JACET2017_6_3JACET中四国発表

  http://global8.or.jp/2017_6_3JACET_CSChapter.pdf
- JASELE2017_8_19全国大会発表

  http://global8.or.jp/2017_8_19JASELE.pdf

3．課題への挑戦（つながり作りへの貢献）（3/3）

グローバルに「つながる」スキル確認を、ICTを活用して、国内で効率的に評価実施する機会(リカレント教育AO？)提供の実現に貢献

- P6の課題認識を地域ごとに共有化し、4技能育成・評価環境を地域に存在する大学等で整備し、地域のハブ機能となって公開型提供が望まれる
- その環境において単に評価実施に留まること無く、ロールモデル的先輩との交流機会を設定することにより動機付けや、学習へのメンター作りを行う

例：四国初のOPIc最高評価のAL獲得の声（香川大学教育学部・堀家　利沙さん）

OPIcテストは、現在の自分の英語力とコミュニケーションスキルを確認できる良いテストだと思います。このテストで質問される内容は、自分のバックグラウンドや趣味に合ったものであるため、外国人の友達と話す感覚で、コンピューター上のアバターとの会話を楽しむことが出来ます。また、1つの質問に対して、話す時間を自分で調整しながら決められるのもこのテストの魅力で、話したい内容や興味のあるトピックであれば、ゆっくりと時間を取りながら、満足のいくまで話せました。

私が英語のスキルアップを目指す理由は、高等学校の英語教師になりたいと考えているからです。グローバル化に伴い、英語で自分の考えをしっかりと伝える力の重要性が今、高まっています。今回、OPIcテストを受験する機会を頂き、英語で相手に自分の思いを伝えるためには、まず英語の基礎能力が確実に定着している必要があるのだと改めて実感しました。難しい表現や単語を無理に使おうとするのではなく、英語の文構造を理解した上で、丁寧に会話をすることこそが、相手に理解してもらえる英語を話すコツなのではないかと思います。

今後の抱負は、どの国出身の方が聞いても聞き取りやすいクリアな英語をマスターすることです。日本語訛りを完全に消して、英語のネイティブ・スピーカーと全く同じ様に話せるように努力するということではなく、イントネーションや英単語のストレスを意識しながら明確にはっきりと発音できるようにしたいと考えています。そのためにも、自信がないからと曖昧に発音をごまかしてしまうことがないように、英語で話す機会を増やし、日々楽しみながら練習していきたいと思います。

http://global8.or.jp/posts/opic3.html

４．つながり作りへの留意点（提言）（１/4）

今後、地球市民として生きていく財産としての英語を2-6-2の格差教育から、育成モデルを設定してキャズム理論的に各層評価・教育を行い全体の底上げを行う可能性の検証

- **2-6-2分布の上位2割を優先選抜しクラス内の教育効率を上げるモデルで、ICTでダイナミックにつながる現代の語学教育は機能するか？又、少子高齢化の時代、限られた高等教育受講者がグローバルコミュニケーションから背を向けたまま卒業して良いのか？**

- **コミュニケーションレベル(Can-Do)開示と現状明示により各自の努力を促す。その際、クラス全体の底上げに向け、マーケティングのキャズム理論(普及率16%の理論)同様のロールモデル・層設定による育成指導、加えて進捗情報のシェアを促すような仕組みは効果的と考える。**

＊上記仮説に興味のある先生、RQご一緒頂けるなら、法人としてご支援させて頂きます。

４．つながり作りへの留意点（提言）（2/4）

学内での継続的「つながり」事例（同志社女子大学3年の展開パターン）

年　度	2015	2016	2017	
学　会	2015ＬＥＴ 全国大会で出会い	2016ＬＥＴ 全国大会共同発表	2017JASELE 全国大会発表	―
社会へのつながり	―	―	―	SP４年生対象 学内研究 プロジェクト
ゼミ内のつながり	３年生若本ゼミ生 中心に試行	科研採択1年目 ２ゼミ対象実施	科研採択2年目 ２ゼミ対象実施	―
高校からのつながり	―	１年生希望者 対象に有償実施 4.7,初回UR14.3%	← １年生希望者5.2,初回UR15.4% 2年生継続希望　5.7	
受験延べ人数	43	98	200+	
効果分析有効対象者数	20	29	ゼミ内	ＳＰ
前ステップからの平均	4.7	4.4	5.2	4.8
次への平均	4.9	4.8	―	―
効果量	0.18	0.46	―	―
特記事項	―	―	―	ＡＬ２名

体験者の声：http://global8.or.jp/posts/service3.html

平均、偏差、効果量の可視データ総括

- 高校ー大学ー留学ー就職の「つなぎ」視点で見ると効果最大化、継続には本人の気付き
- 大学進学者は文部科学省調査対象高校3年測定者の上位層
- スピーキングテストOPIcを試行するクラスは更に上位層
- ACTFLが設定するL2の大学卒業要件到達には更なる努力が必要
- 企業が求める実用レベル（サムスンはIH以上）には、産学連携した努力が必要
  - サムスンはOPIcの7年に渡る適用の結果、入社基準を文系IM以上＜ACTFL通り＞、理系IL以上としている

４．つながり作りへの留意点（提言）（3/4）

大学入試向けの4技能テストの推進を補完するCBT並びにAdaptiveなAO選抜等で検討は？

入試を目標としない、更に先を見ている学生の選抜には適用領域ありと考える

- **ACE**(American Council on Education：**アメリカ教育協議会**) The American Council on Education is the major coordinating body for all the nation's higher education institutions. It seeks to provide leadership and a unifying voice on key higher education issues and to influence public policy through advocacy, research, and program initiatives. For more than 30 years, colleges and universities have trusted ACE CREDIT to provide reliable course equivalency information to facilitate their decisions to award academic credit. For more information, visit the ACE CREDIT website at http://www.acenet.edu/acecredit

Summary of Credit Recommendations for Official ACTFL Ratings

Offical ACTFL Rating	Official OPI/OPIc	Official WPT (no service in Japan)
Novice High/ Intermediate Low	3 LD*	3 LD
Intermediate Mid	6 LD	6 LD
Intermediate High/ Advanced Low	6 LD + 1 UD**	6 LD + 1 UD
Advanced Mid	6 LD + 3 UD	6 LD + 3 UD
Advanced High/ Superior	6 LD + 8 UD	6 LD + 8 UD

*LD-Lower Division Credit **UD-Upper Division Credit

Please refer to the site below for a full list of colleges that accept ACE credit.
http://www2.acenet.edu/crm/cup/?sortby=name&keyword=state&location=&priorlearningoption=

４．つながり作りへの留意点（提言）（4/4）

一般社団法人Global8は、グローバルに通じる人材育成において、ACTFLに準拠した言語コミュニケーション力の評価をベースに、サービスを相互学習する法人です。

学術会員

ACTFL/OPI・OPIcをベースに
①大学英語教育学会(JACET)
②全国英語教育学会(JASELE)
③外国語教育メディア学会(LET)
④一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)
⑤公益社団法人日本語教育学会
⑥グローバル人材育成教育学会(JAGCE)
に加入し「つながり」に貢献します

企業会員

相互認証会員
賛助会員

JAGCE会員からの
学術会員参加大歓迎！
http://global8.or.jp/member.html

OPIc
ACTFL Oral Proficiency Interview - computer ®

時間軸と空間軸を見据えたつながり
Global8 → ∞

GLOBAL8

ACTFL(American Council on the Teaching of Foreign Languages)が開発した対面インタビュー形式の語学テストOPI

→10年前iBT（internet based test）化

LTI(Language Testing International)ライセンスのもと全世界で販売

- LTIは4技能提供：LPT/RPT/WPT/OPI・OPIc(当法人は日本人の課題であり、ACTFLの特徴を生かせるスピーキングのみ日本市場でサービス提供)

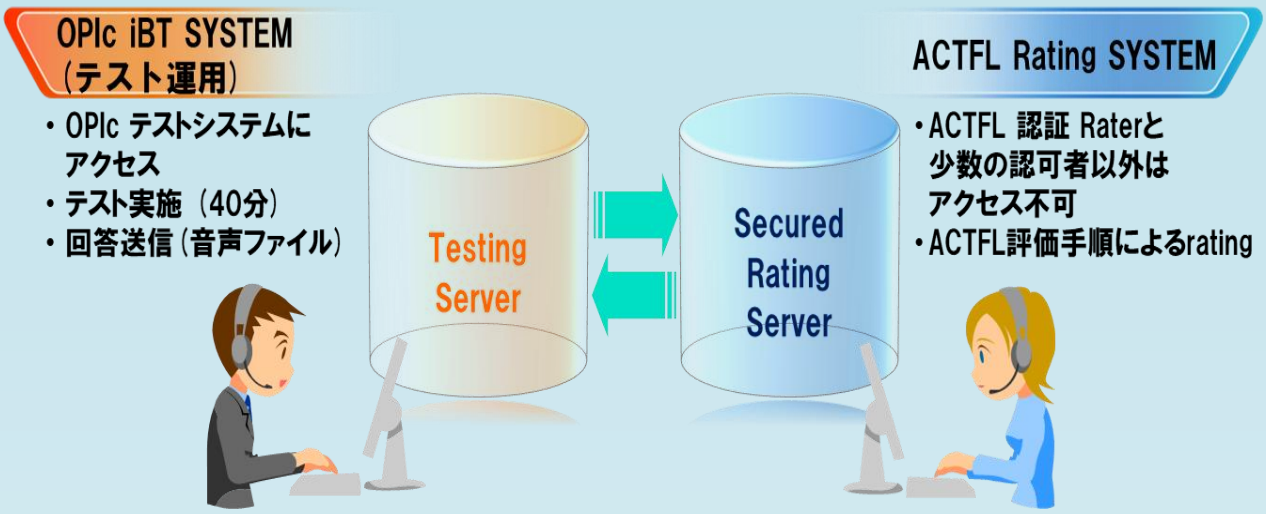
英語によるコミュニケーションで、課題意識の高いスピーキング力を測定するグローバル標準の英語スピーキングテスト

サービス開始後10年を経て、世界100カ国以上で導入され、現在までに約150万人を超える人が受験

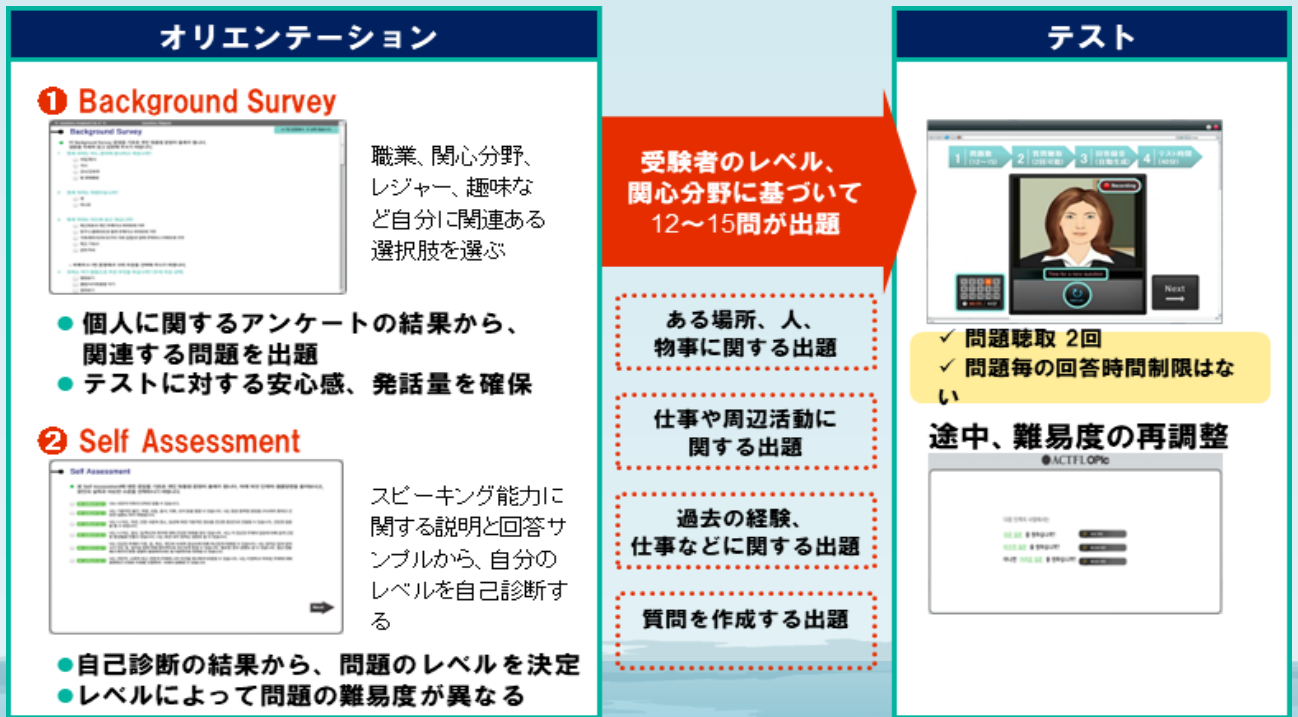
iBT方式で大規模受験が可能

- 同時に多人数の受験可能（PC台数／LANのキャパシティーを踏まえて）
- 迅速な結果確認が可能
（テスト結果は5営業日後の13:00以降に確定）

テスト受験の仕組み



テストの流れ



補足資料
２．ＯＰＩｃ英語スピーキングテストの概要（まとめ）

対象言語	英語
テスト時間	約60分（オリエンテーション20分、テスト最大40分）
出題内容	Background Surveyを通じて個人に合わせた問題を出題 例えば、職業、レジャー、趣味、関心事、スポーツ、旅行などのトピック
評価基準	ACTFL Speaking Guidelines 2012基準 OPIc level 1～7（Novice Low～ Advanced Low）
問題数	12～15問（個人によって異なる）
テストの特徴	●「様々な方法で「話せる」状況を実現」 ●実践的なスピーキング力を測る評価項目 ●高い利便性
評価要素	● Function/ Global Tasks（コミュニケーション継続能力） ● Text Type（文章構成力） ● Contents/ Context（状況に応じた表現力） ● Comprehensibility（質問意図の把握能力） ● Language Control（文法・語彙・流暢さ・発音） →一つの評価領域に偏らず、受験者の会話を総合的に評価

当法人協賛展示場所で青山学院大学CALLを使った受験風景並びに学生の受験後感想ビデオをどうぞ

- 試験風景（青山学院大学：英語）：1分

- 受験後感想（青山学院大学：他のスピーキングテストとの違い）：3分

Achievement型テストよりProficiency型テストの方が苦手意識のスピーキングテストとしての抵抗低くWTC(Willingness to Communicate)に貢献し易いか？

- **再挑戦への意欲継続（ポスト時のアンケート結果：JELES47で紹介）**

  http://global8.or.jp/JELES47.pdf p20

- **高校ー大学ー大学院ー企業の各セグメント、目的に特化しないシームレスに「つながる」スピーキングテスト（下記当法人のプリーポストテスト結果と自己認識の変遷レポート＜サンプル＞参照）**

事前自己分析（現状と目標）ーテスト結果との関係

今後獲得したい評価 ＼ 現状の評価（自己評価）	Novice Low	Novice Mid	Novice High	Intermediate Low	Intermediate Mid	Intermediate High	Advanced Low
Advanced Low			4	1	2		2
Intermediate High		2	3	11	3	1①8	
Intermediate Mid		1	3	1	⑬⑱17		
Intermediate Low				⑫⑨3			
Novice High			④①				
Novice Mid		1					
Novice Low							

事前自己分析（現状と目標）：黒字（n＝32、無効1　）
プリテスト結果：青字（n＝有効の29限定）
ポストテスト結果：紫字（n＝29）
ポストテスト後の今後の目標：赤字（n＝31、ポストのみの2名含む）

北海学園の事例と課題検証

● スピード

2014年5月31日（土）JACET北海道支部研究例会での出会い
2014年10月30日（木) OPIcトライアル試験＋セミナー　学生＋官
http://ba.hgu.jp/wp-content/themes/keiei/images/pdf/reports2014.pdf　p15

● 波及効果

2014年11月15日（土）
JAGCE第2回全国大会@国際教養大学

シンポジウム Ⅱ登壇
「国内・海外インターンシップの新しい展開ー研修内容の多様化と事前準備学習の重要性」
司会　小野　博（福岡大学）
シンポジスト
穴田有一（北海道情報大学）内藤永（北海学園大学）
阿比留正弘（福岡大学）　迫田耕一（鹿児島国際大学）

11月16日（日）
招待講演「企業が求めるグローバル人材」
今村裕子（日本郵船）望月亮祐（神戸製鋼所）
佐藤秀明（日本電気）山下顕一（メディアサイト）

● 制約条件

CALLの利用制限(cf.P6)
官の予算支援
産の積極的連携

ACTFLガイドを始めとした海外のガイド

- **高校生に求められるIL（A2）到達レベルの確認と、時間を要するIM以上の習得への学習意思確認と必要な機会提供**

レベル名称	CEFR	今回実証適用値	言語能力	米国での職務ガイド	修得対象	FSI到達ガイド
	C1:AH,C2:S					
Advanced Low(AL)	B2	9	自分の考えや経験を流暢に表現できる。討論や交渉、説得など実際の業務で駆使することができる。	・Customer Service Agent, Social Worker, Claims Processor,K-12 Language Teacher, Police Officer, Maintenance Administrator, Billing Clerk, Legal Secretary, Legal Receptionist	・Undergraduate language majors with year-long study abroad experience	1320h
Intermediate High(IH)		8	文法的に大きな間違いが無く言語を駆使し、基本的なビジネスや会議でコミュニケーションができる。	・Auto Inspector, Aviation Personnel, Missionary, Tour guide	・Undergraduate language majors without year-long study abroad experience	
Intermediate Mid(IM3～IM1)	B1	7 6 5	小さな文法的ミスはあるものの、長いセンテンスを駆使し、基本的なコミュニケーションができる。 ※IM3（上）、IM2（中）、IM1（下）に細分化	・Cashier, Sales clerk(highly predictable cintexts)	・L2learners after 6-8 year sequences of study(AP,etc.) ・4-6 semester college sequence	
Intermediate Low(IL)	A2	4	日常的な話題はセンテンスで話すことができる。会話に参加し、興味のある話題は自信を持って話すことができる。	・Receptionist, Housekeeping Staff	・L2learners after 4 year high school sequence or 2 semester college sequence	480h
Novice High(NH)	A1	3	簡単な単語や句を駆使してコミュニケーションができる。			
Novice Mid(NM)		2	既に暗記している単語やセンテンスで話すことができる。		・L2learners after 2 years of high school language study	
Novice Low(NL)		1	限定的ではあるが、単語を羅列して話すことができる。			

比較のための可視化結果公開でなく、授業・留学の最適化に向けた事例公開

- JELES46ポスターp7で発表

http://www.decode.waseda.ac.jp/announcement/documents-for-2016-03-12-13/TomohiroYagi.pdf

No	サイト	クラス	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率	AL人数	実用比率	到達比率	備考
1	東京大学	工学部Mスカイプ	20	6.8	1.54	7.5	1	0.42	65	1	70	100	RISTEX検証対象
2	青山学院大学	経済学部ゼミ生	30	5.8	1.58	6.2	1.71	0.25	20		36.7	60	
		3年次	19	5.6	1.84	5.9	1.87	0.16	36.8		36.8	63.2	
		同上卒業前	19	5.9	1.87	6.2	1.89	0.16	21.1	2	31.6	73.7	
		新3年生	24	5	1.57					2	8.3	45.8	欅は繋がるか？
3	関西大学	KU-COIL	13	4.8	1.36	5.2	1.09	0.29	46.2		7.7	76.9	
4			20	4.7	1.23	4.9	1.02	0.16	25		5	70	
5			13	4	1.15	4.6	1.12	0.54	61.5			53.8	科研費
6			99	3.9	1.09	4.1	1.04	0.22	24.2		2	26.3	
7			8	3.8	0.46	4.1	0.64	0.65	37.5			25	プリ19名
8			14	3.8	0.58	3.9	0.86	0.17	7.1			21.4	
9			19	3.8	1.08	3.8	1.26	0.00	5.3			31.6	
10			16	3.6	1.26	3.8	1.33	0.16	18.8		6.3	12.5	科研費
11	実践女子大学短期大学部	教材統制スカイプ	23	3.4	1.08	3.7	0.83	0.28	21.7			17.4	
12	実践女子大学短期大学部	一般スカイプ	19	3.1	0.85	3.3	0.82	0.24	26.3			5.3	
13	実践女子大学短期大学部	海外短期留学	20	3	0.82	3.7	0.75	0.85	40			10.0	
14	西九州大学	留学準備短期合宿	29	2.5	0.63	3.1	0.75	0.87	55.2			0	
15	関東国際高校	1年生ハワイ	20	3.0	0.83			#VALUE!					
16	某中校一貫校	中学3年生	69	2.8	0.71	3.4	0.76	0.85	59.4				オーストラリア修学旅行の中間置半分のポストテスト
			494										
cf	高校3年生26年度調査		16,583	1.94									

科研適用研究を軸とした「つながり」一覧

- 英語発信技能評価システムの構築とその応用研究完了 (25370644 長崎県立大学 上村)
- ウェブ会議を取り入れた発信型の指導が英語スピーキング力に与える影響　完了 (26370675 法政大学　飯野)
- 大学英語教育におけるスピーキングテストの比較：指導法及び学習者要因とのモデル構築 完了(26370738 聖心女子大学→ICU　藤井、共同研究：津田塾大学　稲垣)
- 英語スピーキング能力を伸ばす授業法：その指導法と成果の可視化に関する実証的研究 最終年(15K02681 愛媛大学　長崎)
- 日本人英語学習者へのオンライン会話活動導入に向けたガイドライン策定　最終年 (15K02735 サイバー大学　坂本)
- 英語オーラルコミュニケーション能力伸長の可能性-語彙学習方略と反転授業に着目して 2年目　(16K04721 同志社女子大学 若本)
- 多読・多聴・多話活動が理系学生のスピーキング力に与える影響の実証的研究　2年目 (16K02867 摂南大学　松田)
- 今年採択複数件（日本語OPIcも開始）
  累計10件突破！